

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873900470		
法人名	有限会社 レインボープラス		
事業所名	グループホーム 虹の森		
所在地	北宇和郡松野町延野々1448-1 (電話) 0895-42-2245		
管理者	竹本 香代子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 28 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(28,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 31 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2 名		要介護 2	3 名	
要介護 3	4 名		要介護 4	名	
要介護 5	名		要支援 2	名	
年齢	平均 73.5 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

救急救命士、マッサージ師、ケアマネジャーの資格を持つ運営者が、福祉事業への思い入れから開設したホームである。ホームは町の中心地にあり、おさかな館、虹の森公園のすぐ近くで、利用者の散歩や買い物にも最適である。建物は民家風の平屋で、居間は広く、掘り炬燵もあって、くつろげる家庭的な雰囲気である。職員は利用者の思いや楽しみごとを大事にしながら、笑顔と優しさの支援を心がけ、ともに仲良く暮らしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価を活かし、理念の地域への啓発や地域との交流は少しずつ改善している。なお、町担当者との連携、介護計画の立て方、災害時の避難訓練への取り組みがさらに改善されることを期待する。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者、職員は評価の意義を理解した上で、職員全員で自己評価について話し合い、管理者がそれをまとめている。職員は自己評価が大変ではあるが、日々の支援の参考になると考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議ではホームの運営状況、利用者の状態とその支援状況、地域やボランティアとの交流の報告等を行い、参加者からの意見や助言についての話し合いをしている。参加者からのサービス評価や運営推進会議の活用、サービスの質の確保と向上等についての意見や助言をホームの運営や支援に活かしたいと考えている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の意見や思いは面会時や電話で話をする時に聞いている。また、家族の苦情・相談窓口は重要事項説明書に内部と外部に分けて明記し、説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

ホームは地域の秋祭りや文化祭に参加し、ボランティアが訪れてカラオケや踊りを利用者とともに楽しむ等、地元との交流が少しずつ進んでいる。利用者が一人で出歩いていると近所の方から連絡があったり、地元の方が野菜を届けてくれる等の関係ができています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 有限会社 レインボープラス

(ユニット名) グループホーム虹の森

記入者(管理者)

氏名 竹本香代子

評価完了日 平成 19 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 日々の介護での難しさを実感する。スタッフ全員で理念に合った介護を心がけている。 (外部評価) 全職員で話し合い「いつも笑顔で、やさしい心」と分かりやすく覚えやすい理念をつくり、居間に掲げている。ホームは間もなく移転予定で、移転先の地区での地域密着的な要素を加えた理念または行動目標を考えたいと思っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 月2回のスタッフ会を行い、話し合う。日々浸透させていくよう努力している。 (外部評価) 月2回のスタッフ会で、理念について話し合っている。また、管理者や職員は日々のケアの中で、笑顔で接したり、やさしく対応する等、理念の実践に努めている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者・家族には、説明しているが、理解してもらっているかわからない。		家族会が実現していないため、早々に行なう予定。計画中

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 気軽に立ち寄ってもらえるよう努力している。スタッフに地元の人がいるため、声かけを行なう。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地元の人々との交流は、できているとは言えない。 (外部評価) ホームは地域の秋祭りや文化祭に参加し、少しづつ交流に努めている。また、地域のボランティアの踊りやカラオケを利用者と共に楽しんでいる。利用者が一人で出歩いていると近所の人から連絡があったり、地元の方が野菜を届けてくれる等、徐々に地域との交流が進んでいる。		自治会、老人会などに働きかけて交流が出来ればと思う。子供たちとも交流したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 取り組んではいるが、実行できていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 話し合い改善に取り組んでいる。サービスの質の向上を目指し、情報源にしている。 (外部評価) 管理者、職員は評価の意義を理解し、自己評価は全職員で話し合い、管理者がまとめている。前回の評価を活かし、理念の地域への啓発や地域との交流は少しづつ改善しているが、町担当者との連携、介護計画の立て方、災害時の避難訓練への取り組みは十分とはいえず、今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議を重ねる事により理解でき、サービス向上にむけ活かすことができつつある。 (外部評価) 今までの会議を見直し、参加メンバーを一新しての会議運営に取り組みはじめたところである。会議を通してホームへの参加者の理解を深め、有意義な意見も出ているが、それらの意見をサービス向上に活かすまでには至っていない。	※	メンバーを一新し、活発な意見が出されるようになってきた。さらに、利用者や家族、地元の人々の意見が得られるような会議運営の工夫とともに、出された意見がホームのサービス向上に活かされるよう期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 福祉関係者、他のグループホームとの意見交換を行なっている。 (外部評価) 地域包括支援センターと連絡し合ったり、利用者の生活保護手続き等で町役場を訪ねた時には担当者のもとに立ち寄っているが、ホーム側から町担当者と行き来する機会を作ったり、連絡し合うことは少ない。	※	ホーム側からも積極的に町担当者と連絡をとり、ホームの課題を共に考えたり助言を得るなどして、共にサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性のある人には、スタッフ会で話し合い学習をする。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 苦情報告、ヒヤリハット等原因をさぐり、話し合い学習する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、家族に説明し同意を得ている。		入居時の情報は得ているが、今回は最近の情報収集を行ない、見直し予定。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満・苦情を聞き入れるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的に報告している。受診時に変わりがあれば報告している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、月に1回書類や電話で家族に報告している。電話の時は本人と家族が直接話せるよう配慮している。また、家族に介護計画書を送って確認を得る際に、計画書に利用者の写真を載せている。金銭管理が難しい利用者のみホームで管理し、家族に報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 大きな混乱はない。話しやすい雰囲気作り、信頼関係をもつよう心がけている。 (外部評価) 家族の意見や思いは面会の時や電話で話す時に聞いている。また、家族の苦情・相談窓口は重要事項説明書に内部と外部に分けて明記し、説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会をもち、話し合い、検討し、サービス改善に心がけている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) できている		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職者もなく、現在安定している。 (外部評価) 運営者は職員の異動や離職を最小限にするよう努力している。職員が代わる場合は新採用者が離職者と重複勤務することで、利用者への影響を少なくしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の意欲がでている。休みを利用して参加している。今年もヘルパー2級を取得する。 (外部評価) 外部研修は主に近隣市にある病院の広域支援センターでの研修会に、職員が休みを利用して参加している。研修後は資料等を掲示することで他の職員にも研修内容を伝えている。ホーム内では月2回のスタッフ会で気付きやケアの留意点等を話し合うが、定期的、計画的な学習会は行われていない。	※	サービスの質の向上の面からも、ホーム内での学習は欠かせないため、定期的または年間行事に組み入れる等して内部研修を実施することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) スタッフに意欲がでている。他の施設見学を希望しているスタッフがいる。交流をもちながら学んで行きたい。 (外部評価) 管理者や職員は他のホームと意見交換や相互訪問の機会があり、得たものを日頃のケア、支援に活かしている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会の後親睦会を行うなど、気分転換を行っている		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努めている		適した人材の採用。認知症に対して理解のある人。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時一人ひとり基本情報を把握している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と面談、話し合い、耳を傾けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援に対応するよう努力している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 孤独にならず、入居者と楽しい生活ができるよう心がけをし、生活の場をつくる。 (外部評価) 入居時は、まず食事を他の利用者と共に食べてもらうことにしている。その他は見守り、声かけを行い、いつ頃から、どのようにして馴染んでいけるか判断している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 時間の許す限り、コミュニケーションを取り合い、昔話をしたり、入居者から学ぶことができるようにしている。 (外部評価) 職員は利用者と洗濯物を干したり、たたんだり、掃除、料理、ラジオ体操、花壇の水やり、ゲーム等とともにやっている。利用者から調理法や干し柿の作り方、ことわざ等を教わることもある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に、入居者とその家族で近況報告を話し合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の面会が少ないため、情報提供は電話連絡と写真の送付などを行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の横に座り、スキンシップを取りながら、昔話などを聞くようにしてきる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) レクリエーション、ゲームなどを行ない、全員参加するよう声かけをおこなう。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 家族・知人などに近況を聞く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人にあった気分転換方法を図る。 (外部評価) 利用者の食べたい物を献立に取り入れたり、一番に入浴したい利用者には希望が叶うよう配慮する等、一人ひとりの希望や意向を把握した支援をしている。いらいらしている時は外出したい時…というように利用者の態度やしぐさから思いを把握することもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時、情報収集を行なう。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の観察、記録をとる。申し送りをする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) スタッフで話し合い、カンファレンスを行い、ケアプランをたて、家族に同意してもらいプランにあった介護 (外部評価) 利用者ごとに担当職員を決めており、担当者が中心になって利用者や家族の思いを反映し、職員間で話し合って介護計画を作成している。しかし、介護計画表の項目にそった内容表現が的確でない部分がある。	※	いま一度、介護計画の立て方の学習を全職員で行ない、日々のケアの実践に役立つ計画を立てられるようになることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 新しい計画をたてるようにしているが、情報が少ない。日々の情報収集がきちんとできていない。 (外部評価) 月2回のスタッフ会で介護計画の見直しが必要かどうかのチェックをしている。また、利用者や家族の状況が変化した時は、その都度計画を見直している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアカンファレンスを行ない、記録を残すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 月1回、家族と連絡をとり、話し合っている。 (外部評価) 急な受診や外泊、墓参り、家族のホームへの宿泊等、利用者や家族の状況や変化に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) できているとはいえない。		これから他の職種と連携を図っていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居者とあった場所を相談し、入居を申し込むなど相談にのってもらう。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) スタッフが相談にのっていただき、協力していただく。話しやすい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 気軽に相談できる。気持ちよく対応してもらえる。 (外部評価) 利用者及び家族の希望に応じたかかりつけ医への受診を支援している。入院が必要な場合はホームと契約している病院を紹介することもある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 病院と連携をとり受診に行く。精神病院は外来のスタッフが相談にのる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームにも看護師がいる。知人にも看護職がいるため相談できる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 情報交換や相談に乗ってもらえる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時、家族と話している。スタッフ会などでも話し合っている。 (外部評価) 利用者や家族が希望すれば重度化や終末期の対応は可能であり、早い段階から話し合いも行い、対応にあたって具体的にどのように行っていくかの取り決めはあるが、マニュアル整備や全職員の意識統一には今後取り組む予定である。	※	重度化や終末期の対応については、協力医療機関やかかりつけ医の訪問診療・訪問看護の活用、家族の役割、昼・夜間の介護体制等の具体的な取り決めを全職員で話し合い、マニュアル化することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 主治医、スタッフと相談し、取り組みを始めている		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族と連絡をとり、本人とも相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) スタッフ会で再確認をしている。 (外部評価) 衣服の着替えは居室で行い、難聴の利用者には筆談で話を伝え、トイレ誘導は耳元で声かけをする等、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。記録類は事務室で保管し、個人情報に配慮した適切な管理をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人と話をし、自己決定できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の主張を尊重するようにしている。 (外部評価) 一人で過ごしたい利用者が居間の隅に座っているのを見守ったり、食後に眠ってしまった方には時間をおいて歯磨きの誘導をしたり、シャワー浴をしたい時には希望が叶うようにする等、一人ひとりのペースを大事にした支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) スタッフの中に美容師がいるため、本人の希望で行なう。2ヶ月に1回ボランティアで来ていただく。ひとりで散発に行く人もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 声かけをして手伝ってもらう。片付けは各自で行なう。 (外部評価) 利用者の好きな食べ物を献立に取り入れたり、食べたいおやつと一緒に作る等、食べる楽しみを大事にした支援をしている。食事時はできるだけ自力で摂取してもらうことを基本に、一人ひとりの力量に応じた介助をしている。職員は利用者と共に調理、食事、後片付けを行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 基本は自由だが、病状によっては制限するように声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、オムツの使用量を減らすことができています。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 週3回の入浴。曜日によって順番を決めている。 (外部評価) 入浴の順番を利用者の希望する順にしたり、シャワー浴希望者にはいつでも対応する等、入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 睡眠剤やリラックスでき、睡眠できるよう支援する。 (テレビ、話を聞いている)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 花・野菜作りなどをし、気分転換をする。 (外部評価) 一人ひとりの力を活かして花壇の水やり、熱帯魚の餌当番、食後の後片付け、洗濯物たたみ等の役割を支援している。また、花を活けたり、ゲームやラジオ体操をしたり、買い物やドライブに出かける等、日々の生活の中で気晴らしできるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自由に買い物できる人 3名 管理ができないため、こづかいとして預かっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 戸外に出て、日光浴など行なう。ホームの周りの歩行訓練を行なう。 (外部評価) 利用者の希望にそって、近くの公園などへ散歩に出かけたり、買い物に行ったり、ドライブを楽しんだりしている。		長距離歩行が困難な人がほとんど。一度に外出することが難しい。自由とはいえないが、努力している。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 全員ではないが、家族の面会時に「道の駅」へ出かけ、外食をされる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話でのやりとりがほとんどである。スタッフが電話をかける。1名は手紙、写真、贈り物、面会がある。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時、自室で時間の許す限り過ごしていただく。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束はしない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵はかけないようにしている。 (外部評価) 運営者や職員は鍵をかけないことの意義を理解しており、居室や日中の玄関には鍵をかけていない。なお、玄関にはセンサーが設置されている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 口出ししないで見守りを重視する。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 決まった場所に保管する。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の服装チェック。事故報告、ヒヤリハットを記入し、カンファレンスを行ない、自覚するようにしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) スタッフ会で話し合っている。		救急法の講習を受けたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) スタッフ会で毎回話し合う。 (外部評価) 台風等で水害の恐れがあり、利用者、職員が実際に避難したことがある。しかし、火災等の対策を職員間で話し合うことはあるが、避難訓練は行われていない。また、災害対策に関して地域の協力が得られる体制は整っていない。	※	地域の人々の協力が得られているか問題である。 いざという時に慌てず確実な避難誘導と安全な避難ができることが重要である。定期的な避難訓練の実施と共に運営推進会議などを通じてホームから働きかけ、地域の協力が得られる体制づくりを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 面会時などの時、話し合う。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 看護師、管理者との連絡を取り、支持を受け対応する。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの受診記録を参考にする。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘のチェック。水分補給。適当な運動。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後のはみがき。口腔のケア		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態によって、水分のチェックを行なう。毎食のチェック。 (外部評価) 時折、管理栄養士が食事の栄養バランスやカロリーをチェックすることになっている。利用者の状態に合わせて刻み食にしたり、ミキサー食にするなどの工夫をし、一人ひとりの力量に応じた食事介助をしている。各利用者の一日の水分摂取量はだまかに把握しており、それぞれの病状・体調等に応じて必要な場合は記録も残すようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗いに気をつける。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材はスーパーに注文、配達をしてもらう。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホームのまわりに花、野菜を作り、かわいい置物を飾るなどの気配りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) スタッフが雰囲気作りに心がけている。 (外部評価) ホームは大きな平屋建て民家で、玄関、居間、台所、食堂等も家庭的な雰囲気がある。居間は見やすい時計、掘りごたつ、ゆったりしたソファ、季節の花、熱帯魚の水槽等があり、落ち着いて過ごせる空間となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) コタツの部屋があり、自由に過ごしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものを自由に持込している。自室で面会も行なう。 (外部評価) 居室は利用者の使い慣れた小ダンスや時計、お気に入りのマスコット、位牌等が持ち込まれ、家族の写真も飾られていて、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度調節に気をつける。入居者に応じて座る場所を工夫する。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の状態に応じていつでも利用できるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 見守りをしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花作り、野菜作りをし、外に出るよう声かけをする。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	話しかけ、意見を聞きできるだけ希望に答えるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	入浴、受診のないときは、日々できないことをみんなで行なうようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自由に行動できている。(園芸をしたり、音楽鑑賞、カラオケ等)
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声かけをし、ゲームを楽しんだりレクリエーションに参加を勧める。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	長距離歩行ができない為、まとまった外出ができない。車椅子の利用が増える。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の中には不安を訴える人もある。スタッフに看護師がいるので利用者が安心して居る。症状を聞いても理解できない利用者がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声かけに対し、素直に聞き入れる人もあるが、何度言っても理解できない時もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	連絡を取り、よく話し合う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	地域にとけこむように、また理解していただけるよう呼びかけが必要。ただし知人の面会はある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	認知症に対しての理解がないように思われる。施設のように思っている方がいる。受診の時などに質問を受ける。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者（男性）が怒りっぽく、声かけのタイミング対応に気を使う。他の入居者に迷惑をかけないようにとストレスがたまる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の笑顔を見ているとわかる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足してもらっていると思う。現在のところ、苦情もない。入居時に手がつけられなかった人も、現在は落ち着いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

ホームの生活に慣れていただくよう、ゆっくり・ゆったりした生活リズムに溶け込むようにスタッフが努力している。入居者には、個性豊かな人などいろいろである。お世話する私たちは、利用者のペースに巻き込まれないよう、距離を置くことも大切だと思う。介護者は自分をコントロールしていくことは難しい。入居者を理解し、プライバシーを守る。介護者は、自分に厳しく、ちょっとしたことでも蜜に連絡を取り合い、その人にあった介護を行う必要がある。家族とのかかわりをなくさないように連絡を取り合い、行事にも参加していただくよう努力していきたい。